

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072400235		
法人名	有限会社ころ		
事業所名	グループホームころ		
所在地	群馬県甘楽郡甘楽町大字白倉557		
自己評価作成日	平成25年4月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成25年5月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なるべく自分のことは自分で行うをモットーに全ての利用者が自立した生活がおくれるようリハビリに重点を置き援助している。
午前中はラジオ体操後、全員、屋外に出て外気浴を兼ねた歩行訓練とスクワット、他、シルバー体操、レク等を合計2時間程度、夕方リハビリ運動、レクを毎日欠かさず行っており利用者の日課になっている。
職員と利用者がお互いに声を掛け合い、刺激しあい、支えあいながら喜怒哀楽を表現することによって会話や笑顔の絶えない明るい雰囲気の中で生活できるよう支援している。
また昼夜、利用者の状況に関わらず出来る限りオムツは使用しない方向で対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が元気で頑張っている。毎日のリハビリの成果が利用者の健康に現われている。日常的な転倒等のリスクも減少し、夜間の良眠に結びついている。利用者頑張ってもらうにはリードするほうも心が痛むそうだが、成果が表れているので意義がある。利用者の利用期間が長く、顔馴染み同志による毎日のリハビリの繰り返しを利用者は張り合いながら頑張っている。喧嘩したり仲良くなって話をしたりしている。また、トイレで排泄する事を大切に支援し、5名の利用者がバットを使用している。トイレでの排泄支援はその人の尊厳を大切にしている証である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時や会議時に運営理念の再確認を行い、また玄関先、ホールにも書面として掲げ、利用者全てが理念の下、快適で安心出来る生活が送れるよう支援している。	理念は日常的には申し送り時に意識させている。新規入職者には面接時から教えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出の際や庭より顔が見えた時にはこちらから積極的に挨拶をし、交流を図っている。また地元の小学校の運動会に招待されたり、地域のイベントがある際には出来るだけ参加している。近所の方から野菜や花を度々頂いている。	毎年地域との交流は継続されている。中学生の実習協力や定期的にボランティアと花見に行ったり慰問を受け入れている。地域のお祭りに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて参加メンバーに情報発信している。また、認知症の悩み、介護の悩み等の相談拠点として看板を設置し遠慮なく立ち寄れるよう働きかけている。町主催の認知症サポーター養成講座にて町内の他事業所と協力し、認知症の寸劇も行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	座談会形式で毎月月の状況報告を行い、気軽にどんな意見でも出してもらえよう働きかけ、出された意見はサービス向上に反映させている。火災時等、緊急時の避難誘導を率先して行っていただけるよう隣家の方にお願ひし、協力を得た。	定期的開催し、家族・区長・組長・民生委員・老人会会長・町の担当者が出席し、活動状況等を報告している。家族に案内を通知しており、家族の出席も徐々に増えて来ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には必ず参加してもらい、また毎月月の状況報告を行いながら意見交換を行い、わからない事や空気が出来た場合には真っ先に連絡し、情報をもらえるよう働きかけている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会があれば可能な限り参加し、職員全員に周知するよう努めている。また、昼間の間は玄関の施錠は原則行わず、見守りに対応している。	玄関は開錠されており、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会があれば可能な限り参加し、職員全員に周知するよう努めている。ホーム内では職員間で常に声を掛け合い、虐待に至らないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば possible の限り参加し、職員全員に周知するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には条項を十分に読み上げ、不明な点がないか確認し、納得いただいてから署名をいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望があれば遠慮なく言うよう促している。また苦情等に関しては事業所内の窓口だけでなく公共機関の苦情受付窓口等も説明している。	些細な事でも家族に報告している。家族からは「報告はいいですよ」と言われるが報告をしているので、意見はあまりあがらない。利用者には意見を聞いたり、職員が提案して答えてもらっている。テーブル拭き、雑巾がけやモップかけを手伝ってもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は職員の意見を聞くよう常に心がけている。	引き継ぎ会議は毎日行い、月に1度のカンファレンスで職員は意見を言える環境である。管理者は職員を長いスパンで育てようとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務形態、労働時間等は各職員の希望を出る限り汲み取り希望を叶えるよう努力している。また研修への参加、資格取得も出来る限り促し、その為の勤務形態の融通を図る等、出来る限りの支援もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会があれば事前に案内し、本人の希望を尊重しながら出来る限り参加してもらうよう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に同一地域内の事業所とはお互いに情報交換や事業所の見学受け入れ、職員の派遣(見学研修)等の活動を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の前に事業所を見学していただいたり、管理者とケアマネで面会し、十分にコミュニケーションを図りながら本人が安心してサービスを受けられるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の前に事業所を見学していただいたり、管理者とケアマネで面会し、十分にコミュニケーションを図りながら要望等を聞き、安心して任せていただけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用しない場合であっても、本人や家族の状況、要望を踏まえ、本人にとって最も適切で利用可能なサービスの情報提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	良事の下こしらえやテーブル拭き、お茶入れ掃除等を手伝っていただいたり、運動やレクを一緒に行いながら、無理なく体の機能を維持しつつ、お互いが笑ったり、泣いたり、怒ったり感情表現を出せるような工夫をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り面会に来所していただくよう働きかけ、利用者さんや職員と一緒に花茶や食事をしながら話をする機会を設けるよにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんによっては昔の知り合いの方達がたまに来所してくれるので、また来てもらえるようその都度、お願いをしている。また町内のイベント等にも積極的に参加をし、地域の人達とふれ合える機会を作っている。	友人等訪問者が継続して来てくれている。地域の通りがかりの人が寄ったり、花や野菜を届けてくれている。家族と受診や外出・外食で出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日が全体的な動きなので利用者さん同士が関わりあう機会が多く、テーブル吹きやお茶入れ等のお手伝いをしていただいた時にお礼を言い合える関係が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長期化し、退去到った場合でも、必要があれば出来る限り面会に行き、協力できそうな事は協力する旨、申し出て関係を切らないようにしている。また、お通夜やお葬式にも参列させていただいたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から個人個人の思いを表情や言動から把握し、それぞれの意向に沿った対応するよう努めているが、利用者さんの希望に沿うあまり不規則な生活リズムにはならないよう必要な場合は声掛けを行い規則正しいメリハリのある生活になるよう家族や本人から出来る限り詳しく生活歴を聞き取り、その人の家族構成や職歴、趣味や好きな物等の情報を職員間で共有し、それらの情報を基に本人とコミュニケーションを図りながらその人らしく生活できるよう支援している。	担当制はとっていない。職員皆が本人の気持ちや意向を聞いて、言葉の出ない人からは動作や簡単な発語を聞いて推察することもある。家族の意向は電話等で確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活中で運動やお手伝いをさせていただいたり、職員とのコミュニケーションの中で個人個人の現在の心身状態の把握に努め、出来る範囲の運動やお手伝いをさせていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが主導で事前に本人や家族から意向を聞きとり、それを踏まえ、主治医や看護師、職員から出された意見やアイデア等を取り入れ、現状の利用者にとって目標達成出来る範囲の介護計画を作成している。	月に1度担当者会議を開き、共有した情報をもってプランを立てている。ケアマネジャーがプランの了解を得ている。毎月1回モニタリングと随時と3ヶ月に1度の見直しにより、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践内容や気づき等で普段と違う発見があればその都度、個人記録に記入し、申し送りやカンファレンスで職員全員が情報を共有出来るようにしている。必要がある場合にはケアの方法を変更したり、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内だけのサービスにならないよう、家族や利用者さんの要望を聞いて可能な限り柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元小学校の運動会や地域のお祭り等、地域のイベントには出来るだけ参加し、またボランティアの方々にも定期的に来所していただいて地域の方々との交流を図れる機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用の際に受診についての説明を行い、全ての利用者さん、家族の同意を得、当事業所の主治医に受診している。主治医には全ての利用者さんの体調報告を月に数回、定期的に行い、状況把握してもらっている。年に1~2回定期検診してもらっている。	家族の希望で全員が協力医の支援を受けている。受診は家族支援が基本だが、家族の都合により事業所が付き添いを行う場合もある。事業所支援の場合は手数料が発生する。歯科は必要時に受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医の看護師が月に1~2回、健康管理に來所してくれており、その際に疑問点や対応に関して相談している。また日常的に主治医の看護師や非常勤看護師とも電話で密に利用者状態について情報交換している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会は出来るだけ小まめに行い、その都度、病院のソーシャルワーカー等、病院の担当者との情報交換を密にして診療状況や本人の状況の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用の際に重度化した場合の指針を説明し、早めの段階から主治医や非常勤看護師を含め、話し合いを行い、本人の状態、ケアの方針を共有するよう努めている。	事例はないが、指針が作成されている。家族等関係者の協力が得られれば看取りを行う気持ちがある。協力医の協力依頼を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が不安を抱えているが消防署や外部団体主催の普通救命講習会に可能な限り職員を派遣し、技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に最低2回は避難通報訓練を行い、うち一回は近隣住民、消防署の職員にも参加協力いただいている。万一の際も避難誘導がスムーズに行えるよう隣家4軒の方に率先して誘導してもらえるよう協力体制を築いている。	24年6月消防署立合い、指揮・消火・通報・避難訓練、24年11月指揮・通報・避難訓練を実施している。拡声器を準備し、非常口の段差を解消した。備蓄の用意はない。スプリンクラーと火災通報装置は設置済である。	利用者と職員が避難技術を身に付けられるように、自主訓練の増加と備蓄の用意をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の方でも一人の健全な個人として人格を尊重し、対等に接するよう心掛けている。また声掛けでは命令口調や利用者さんを見下すような発言にならないよう職員全員が常に意識して対応している。	利用者との会話を多くしている。利用者同士の相性には考慮して、見かねた時には止めに入り、話し合いもしている。職員による指示語をなくしてプライドを傷つけない、笑顔になれるような声のかけ方を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	叶えられる範囲で何が食べたいか、何がやりたいか、どこに行きたいか、その都度希望を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活パターンがある程度決まっているので全体的な動きになりやすいが、その中でもそれぞれの利用者さんが退屈しないよう運動やレクを取り入れながら一日を楽しく過ごしてもらえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にその日に着る衣類は利用者さんに任せている。また散髪は2~3か月毎に近所の理容店にお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	芋の皮むきやお茶入れ、テーブル拭き等、簡単な準備は手伝っていただき、食事時は職員も利用者さんと同じテーブルと一緒に会話を楽しみながら食べている。食後の下膳も歩行可能な利用者さんには毎回行っていただいている。また食材の買い出しにも同行してもらっている。	利用者と献立を考え、買い物に行き、作り、一緒に食べている。食べ慣れたものや季節の料理やおはぎ等が喜ばれている。おやつは手作りのジュースやプリン等を提供している。お盆ふき等出来ることは手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、朝・昼・夕の食事摂取量及び水分摂取量は正確に記録し、毎食とも旬の食材を利用し、バランスが崩れないよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず全ての利用者さんの口腔ケアを行っている。自分で出来る利用者さんには自分で行っていただいているが、必ず職員が付き添い、しっかりケア出来ているか見届け、磨き残しや口腔内に食べカス等がないか、ケアのフォローをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を記録し、利用者さん毎に排泄パターンを把握して昼夜問わず、定期的に声掛けを行い、トイレで排泄していただくよう支援している。夜間もオムツやポータブルトイレの使用はしていない。	その人の排泄パターンで誘導して、全員トイレで排泄している。天候や食べた物でも配慮するように指導している。その人特有のソワソワ感を見逃さない。排泄の行為が恥ずかしくないような配慮もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、歩行訓練やスクワット、踏み台昇降運動等、無理のない範囲で運動を行っていただき、また旬な緑黄色野菜を多く使った食事で自然排便を促すよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日(予備日)以外は毎日入浴出来る体制を作っているが、基本的に利用者さん毎に入浴予定日が決まっており、1人当たり最低週2回入浴出来る体制になっている。しかし、希望がある場合には入浴日をずらして本人が入浴したい時に入浴してもらう等、柔軟に対応している。	毎日お風呂に湯がはってある。利用者は入浴予定日に入浴している。午前の日と午後からの入浴時間帯がある。入浴剤を入れている。	利用者には「今日も入れます」というアナウンスを行い希望する利用者には支援をお願いしたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中は十分に運動をしていたため、昼食後は休養の為、一時間半から二時間程度の昼寝時間を作っている。また夜間も十分に安眠出来るよう夕食前に軽い運動と全員で合唱等を行い、自然な入眠に入れるよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく薬の処方があった際には薬局でその薬についての説明及び資料がもらえるので、申し送り時やカンファレンス時等、職員間で情報を共有できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でそれぞれの役割(テーブル拭きやお茶入れ、洗濯物たたみ等)を職員が見出し、行っていただくことで張りのある生活を過ごせるよう支援している。また月に一度くらいは気分転換に外出(花見等)の機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日欠かさず屋外に出て歩行訓練を行っており、それが利用者さんの日課になっている。食材の買い出しに順番で同行していただいたり、家族によっては2週間に一度くらいは気分転換に外出に連れ出してもらっている利用者さんもある。また定期的に全員で花見や地域のイベント等、外出する機会	毎日玄関入口のデッキで歩行訓練を行い、午前中はリハビリ、午後もしリハビリと買い物等に出かけている。季節の初詣やお祭りに出かけ、リンゴ狩りや花見に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則行っていないが、個人的に数百円程度の所持金を持ち込んでいる利用者さんもいる。しかし、個人的にお金を使えるような支援はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある際は電話を使う対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは吹き抜けで壁面には木材を使用し、木のあたたかさ、やわらかさを感じてもらえるよう癒しのある空間になっている。また、近所の方や職員が季節の花を持ってきてくれるので、それを飾って季節感が感じられるよう工夫している。	デッキは日差しが遮られリハビリに使用されている。共用空間は天井が高く、開放感がある。テレビは高い位置にあり、全員が見やすい。スクワットや口腔リハビリ等を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の大テーブル以外に木製のベンチを設け一人になれる場所は作っているが、レク等を行う際には一人になっている利用者さんにも参加していただくよう声掛けを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や日用品を持ち込んでもらっている利用者さんもいるが2/3くらいの利用者さんは市販の衣装ケースを持ち込まれる方が多いので出来る限り殺風景な部屋にならないよう写真や誕生日祝いの品など飾りにしている。	仏壇やラジオ、写真、タンス等持ち込まれている。窓から外の景色が見えるので圧迫感がない。時期により日差し除けの遮熱カーテンで室内温度の上昇を抑えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー構造とし、身体機能と認知機能の低下を予防する為、毎日欠かさずシルバー体操等のレクを行っている。また普段の生活の中で個人個人に合わせた役割を見出し、行っていただくことで張りのある生活を過ごせるよう支援している。		